

わが郷土を語る (その16)

中尾 佐之吉

今地区と周辺の農業用水の慣行

——水は川上から、田植えは川下から——

1) はじめに

今地区とその周辺一昔の御野郡(みのごおり)は、岡山平野の中にあつて、水利に恵まれ、肥沃な耕地は米作に適し岡山藩の穀倉であつた、稲作に水は欠かせない。水源は旭川であるが、この水を川上・川下共に公平に配分しなければならぬ。川上の農民が強い権利を持ち、川下は余水を恵まれるでは、川下の農民は頭が上らない。ただし、そうは言つても、このような形が通例ではあらう。

しかし、この地方は違う。水の権利は平等でなければならぬと、特異の水利慣行がつくられた。真偽のほどは知らないが、私が父から聞いた話だと、このような水利慣行は、かの熊澤蕃山の配慮であつたという。

そこで、この地区の水利の「しきたり」の概要を次に述べることにする。ただし、私は用水関係の実務にたずさわつたこともなく、不明のことが多いので、用水関係の経験者の方から指導していただいたことを感謝をこめて申し添えておく。

2) 田植えは、川下(平田・田中野田)から

平成4年6月12日
平成4年度 今・芳田・大野地区 用水開番割

月日	時間	場所
6月18日	午後5時	大手(平田・米倉)
6月18日	午後5時	大手(西長瀬・辰巳・田中)
6月20日	午後5時	下中野(一の坪・西浦)中仙道(水樋) 今村家崎・辰巳(水樋、勘定)田中(水樋)
6月22日	午後5時	上中野(樋の元)今村官の前
6月22日	午後5時	辻・金丸

前掲の表は平成4年度の開番割である。田植時期(当地区では、最近直播栽培が多くなつたので田植はあまり見られないが)この期日と時刻にそれぞれの樋門が締め切られるのである。この場合用水路の末端の樋門が先ず締められ、順次、上流の樋門に移っていくことが示されている。樋門が閉じられると、用水路の水位が上がり自然に田に水が入り田植ができるというわけである。したがつて、田植は川下から始めて上流の地区へと進んでいくのである。田植は、「川上から川下へ」と進むのが一般であるのに、この地区は逆なのである。特異慣行という、所以である。

3) 田植後の用水の管理は、幹線用水路樋門の調節で

下表の開番(せきばん)割を見ていただきたい。左らんに野田・大供・

辻とあるのは、今・大野地区関係の幹線用水路にかかる樋門の場所を示しており、期日は、樋門の締められる日程である。(ただし、樋門締められる時間帯は期日の前日17時から当日の12時までである。)

この期日以外の日は開樋されていて、5日間のうち2日くらいの割合で、上流から末端まで直に水が通されてくるわけで「川上はたっぷり水があるが川下は水がなくて困っている」ということの絶対にないよう配慮されているのである。(土用・出穂期等の水の管理は別に実施されている。また、大雨等非常の場合は、臨機に取り扱われる。)

平成4年度 用水開番割

野	6月19日	6月24日	6月28日	7月 3日	7月 8日
	7 13	7 18	7 22	7 28	8 2
	8 7	8 12	8 16	8 21	8 27
	9 1	9 6	9 10	9 15	9 20
大	6月20日	6月26日	7月 1日	7月 6日	7月10日
	7 15	7 20	7 26	7 31	8 4
	8 9	8 14	8 19	8 24	8 29
	9 3	9 8	9 13	9 18	9 22
供	6月25日	6月29日	7月 4日	7月 9日	7月14日
	7 19	7 23	7 29	8 3	8 8
	8 13	8 17	8 22	8 28	9 2
	9 7	9 11	9 16	9 21	9 26

4) 越地(こじ)について

用水路に直接沿わないで、田越しに水をうけねばならぬ田んぼも多かつた。このような田を「越地がかり」というが、隣地から田越しに水を受ける権利も守られていた。(いまは、区画整理で道路の側溝から水がはいるので「越地がかり」は大方なくなつた。)

5) 川下耕作者の義務

用水を末端の水田まで平等にうけられる権利が守られるかわりに、川下耕作者には義務も負わされている。

即ち、市中の西川までの用水路の「川さらえ」(「川掘り」といって田植前5月に行く)、「もく(溝)引き」など用水路保全のための労力奉仕である。

6) 樋守り

水は命のつきに大切なものである。稲作農業にとっては、水は命である。その命の水をあやつるのが、樋門の番人である「樋守り」である。昔から樋守りの権限は強かつたと思われる。しかし苦労も多かつたに違いない。最近では後述のように、時代も変わり、責任ばかり負わされる樋守りにはなりてが無いのではないと思われる。それにしても、永年樋守りをなさつておられる方には、いろいろの思い出をおもちであらうと推察する。

7) 余話

(イ) 干ばつの思い出

旭川水系に包含される当地区は、豊富な水に恵まれていて、水不足

などということは殆ど無かつたといつてよからう。ただ、私がこどものころ、一度だけ、笹が瀬川に設けられている大手の「田中水門」の入口にたくさんの土俵が詰め込まれていて、何もわからない私にはこども心に異様な感じをうけたことを覚えている。今村史によると、大正13年に大干ばつがあつたと記されているので、そのときのことであつたかと、思ひだしている。

(ロ) 都市化の進むなかで

近年は旭川上流に大きなダムが建設され、豊富な水量に恵まれて、水の心配は全く無いし、区画整理で用水路も三方コンクリートに改善された。さらに都市化の進展も著しく、広大な水田も少なくなつてきた。そして、用水としての水への関心も低下しつつかつたのではないと思われる。むしろ、大雨の場合の浸水や、排水のことの方が、より大きな関心事なつていようで、時代の変化を痛感するのである。

< 会員名簿 変動 >

	世帯主	地名	地番	電話	備考
転入	バナホーム	田中			
	磯辺 毅	辰巳			サンライフ辰巳A101
	高瀬 厚	"			" 102
	大前 雅孝	"			" 103
	川原 秀樹	"			" 201
	安東 古都江	"			" 202
	原 徹	"			" 203
	木下 誠	"			" B101
	妹尾 和成	"			" 102
	石川 亮	"			" 103
	田淵 邦彦	"			" 201
	青木 達也	"			" 202
	岡本 秀毅	"			" 203

編集後記



桜咲く4月になりました。

門出の季節です。田中野田からも、何人かのひとが故郷をあとに旅立っていき、また何人かのひとが逆に新しい仲間となりました。

新入生、新入社員は心はずませて、また同時にちょっぴり不安な気持ちでそれぞれの門をくぐります。

われわれ編集委員一同も、昨年の就任時を思い起こして、心期一転、一年間がんばってゆくつもりですので、よろしくお願ひ致します。